

アートラボはしもと

Art Laboratory Hashimoto

〒252-0207

相模原市中央区矢部新町3-15 青少年学習センター内

TEL.042-703-4654 FAX.042-703-4659

E-mail artlabo@city.sagamihara.kanagawa.jp

URL <https://www.city.sagamihara.kanagawa.jp>

2026年8月発行

編集・発行 アートラボはしもと（相模原市市民局文化振興課）

2026年度

所 長 角田仁

学 芸 員 加藤慶／竹内陽

美術専門員 柳川雅史／土屋美紀／入江彩美／高梨麻世

2025年度

所 長 脇岡実穂子

学 芸 員 加藤慶

美術専門員 柳川雅史／土屋美紀／入江彩美／高梨麻世

印刷・デザイン 有限会社オフィス ジオ

Art Laboratory Hashimoto

Annual Report 2025 2025.04 - 2026.03

アートラボはしもと

2025年度 年次報告書



「せっせとジュンピチュウ」イベント用のイラスト。
イラスト提供 | 岡本唯杏／中原楓

アートラボはしもとの14年目

橋本駅の南側、大型商業施設「アリオ橋本」に隣接するマンション販売センターを利活用した暫定施設として、『アートラボはしもと』（以下、「アートラボ」という）が活動を始めたのは2012年4月のことでした。運営にあたっては市内及び近郊の4美術系大学（女子美術大学、桜美林大学、多摩美術大学、東京造形大学）と基本協定を結び、アートラボの企画、各大学の企画、さらには大学間の垣根を越えた学生の企画など様々な形態のプログラムを実施し、子どもたちや地域の方々など、人・組織・企業を巻き込む活動を行ってきました。

その後、2016年5月に策定した「相模原市美術館基本構

想」においてアートラボを「市民との連携や交流による新たなアートの学びと創造の場」と位置づけるとともに、2020年3月に「第3次さがみはら文化芸術振興プラン」を策定し、以後、後継施設の再整備に向け、取組を進めてきました。

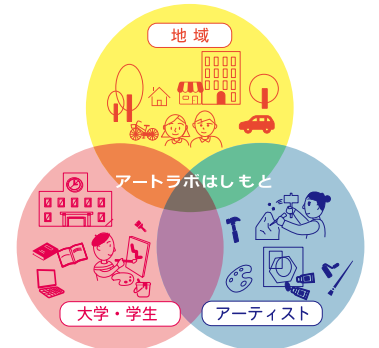
14年目となる2025年度は、これからの開館に向け、後継施設の内装設計を行ったほか、新たな施設で行う取組に向けて、市民意見聴取の実施や東京造形大学・アリオ橋本と連携し、市内児童クラブにおいてワークショップ（以下、「WS」という）を実施してきました。

アートラボはしもとは

アートラボは周辺にある美術系大学などと連携し、そこで学ぶ美大生や卒業生、子どもたちや地域の方々、商店街や企業、学校、研究機関、市民グループなどと協力しながら、多彩なアート事業を展開する“アートの活動拠点”です。現在はリニューアルオープンする後継施設整備のために一時閉館し、相模原市立青少年学習センター内の仮事務所において、その準備を進めています。

活動方針

- 1 アートによるワークショップなどを通じて幅広い世代の市民が美術を体験する場を施設内にとどまらず市内の各地に展開します。
- 2 様々な主体との協働や異分野との連携を進め、アートを通じたコミュニティの形成やまちの賑わいづくりを推進します。
- 3 地域の若手アーティストを支援するとともに美大生に活動の場を提供し、アートに関わる人材を育成します。



これまでの経過

2008年 2月 相模原市美術館検討委員会設置
 2009年 3月 相模原市の美術館にかかる提言書受領
 2011年 5月 相模原市美術館基本構想検討委員会設置
 2012年 3月 4大学とアートラボはしもとに関する基本協定締結
 2012年 4月 アートラボはしもと開館
 2014年 2月 相模原市美術館基本構想答申
 2015年 3月 アートラボはしもと四大学共同提言書受領
 2016年 5月 相模原市美術館基本構想策定
 2018年 5月 相模原市橋本地区における美術施設の整備に関する検討委員会設置
 2019年 1月 アートラボはしもと事業評価
 2019年 10月 アートラボはしもと後継施設の整備に係る建議書受領
 2020年 3月 第3次さがみはら文化芸術振興プラン策定
 2021年 8月 施設閉館／事務所移転

2022年 3月 再整備事業に係る民間事業者公募
 2022年 6月 再整備事業に係る優先交渉権者の選定
 2022年 8月 再整備事業内装設計に係る公募型プロポーザルの実施
 2022年 12月 内装設計者最優秀者をトミト・ANT・川見設計共同体に選定
 2024年 1月 株式会社イトーヨーカ堂と基本協定締結
 2024年 8月 アリオ橋本提案による共同体 (ADK) 組成に関する検証実験プログラムを実施
 2025年 3月 有識者ヒアリング実施
 2025年4月 後継施設内およびVIの検討、アリオ橋本提案による共同体 (ADK) 組成に向けた検討
 ~2026年3月
 2026年 2月 アリオ橋本提案による共同体 (ADK) 組成に関する検証実験プログラム・市民意見聴取実施
 2026年 3月 有識者ヒアリング実施

後継施設の設計の検討について

アートラボはしもとの事業計画との整合性を図りながら、後継施設の基本設計（建物のコンセプト、規模、構造の方向性、設備の大枠など）に向けた取組を進めました。

構想では、商業施設内という人が行き交う環境を活かし、開かれた場としての機能を想定しています。

共有部の通路に面したA区画は、気軽に参加できるプログラムの展開や、ショーウィンドウをのぞき込むように活動の様子が外からも感じられる構成とし、奥に広がるB区画は、アーティストや美大生の制作風景を間近に見たり、工作を体験したりすることができる大きな空間を想定しました。このように後継施設を巡りながら活動の様子を身近に感じる構成とすることで、館内の内外に広

がる活動の起点となる場としての検討を進めました。プログラムや目的に応じた可変性を備え、人の動きや交流が重なり合いながら、その場所ならではの表現や関係が育っていく空間を目指しました。

こうした空間構成は、内装設計者であるトミト・ANT・川見設計JVと協議しながら、アートラボの多様な活動と関係性を育む拠点形成に向けた検討に基づき、進めていきました。

同時に、施設の顔となるヴィジュアル・アイデンティティ*（以下「VI」という）計画についても検討を実施。（詳細P.4参照）

これまでのアートラボの活動を基盤としつつ、WSの実施を通じて新たな要素を加えながら、上記の方向性の整理をしてきました。

*施設や組織の「顔」となるデザインのガイドを計画することです。

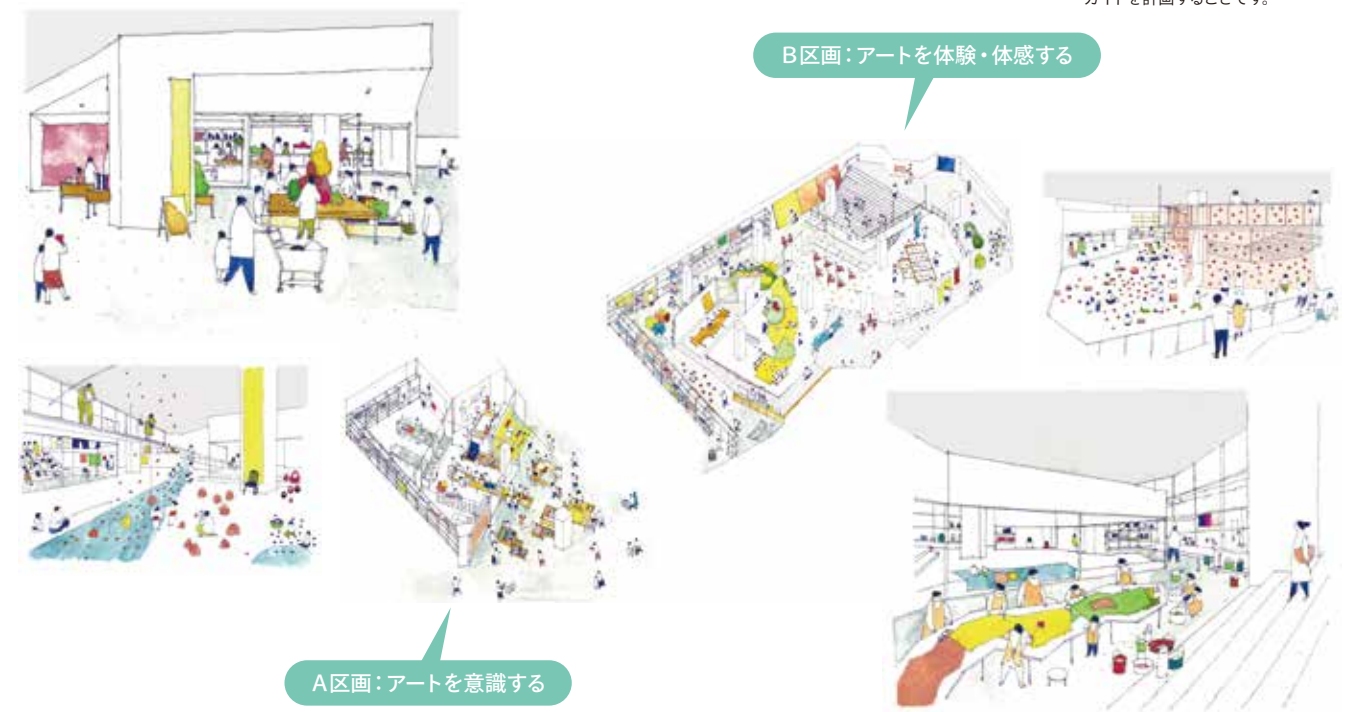
補記 | 優先交渉権者の辞退について

2024年1月に優先交渉者（株式会社イトーヨーカ堂）と、「アートラボはしもと再整備事業に係る基本協定」を締結し、事業の実施に向けた協議を進めてきましたが、同社から建築費高騰等の影響により事業採算性の確保が困難になったため、優先交渉権を辞退したい旨の申し出があり、これを受けて2026年5月20日に基本協定を解除しました。

今後については事業スキームや民間需要の状況を精査し、早期の再整備実現に向けた取組を進めていきます。



優先交渉権者によるイメージ図



※当時の後継施設イメージ図

アートラボはしもと せっせとジュンビチュウ！

～ひらめきアイデア募集中～

市民のみなさんと一緒に考えながら新しい拠点を育てていくため、2026年2月7日にアリオ橋本で市民意見聴取を目的としたプレ・イベント「アートラボはしもと せっせとジュンビチュウ！～ひらめきアイデア募集中～」を実施しました。イベント全体を通してアートラボはしもとの活動におのずとふれられるよう、会場は「見て」「体験して」「語る」の3つのゾーンを意識した構成とし、これまでの事業紹介や後継施設のイメージボードの展示。また、自由記述の掲示板（ヒラメキアイデア募集）やシールコーナー、東京造形大学の学生による工作体験を実施することで、継続施設の姿を具体的に思い描いていただきました。

さらに同会場では、VIにむけた公開プレゼンテーションや、アリオ橋本が美大生と連携して企画した、ショッピングカートを使った『「すすめ!おえかきカード」ショッピングカートを使って巨大な「おえかき?」』（詳細P.4、P.6参照）が行われるなど、これまで様々な連携を重ねてきた当館の活動を体感するイベントとなりました。

日時 | 2026年2月7日（土）11:00～18:00
会場 | アリオ橋本 グランドガーデン
主催 | アートラボはしもと（相模原市）
協力 | 東京造形大学・アリオ橋本



アンケートシール



ヒラメキアイデア募集

東京造形大学との取組

東京造形大学の学生によるカプセルトイを使った工作を行いました。これは2025年7月に実施した工作プログラムをさらに発展させて展開したものです。（詳細P.5「つくって へんしん カワルンジャー」参照）このような取組を通して生まれたつながりが次へと広がっています。



市民意見聴取

新しい施設をつくり上げるにあたり、WSなどの活動を通して、ともに学び、工夫し、生まれた関係性を育てていきたいと考え、みなさんのアイデアを伺いました。「あったらよいと思う道具は」や「アートと組み合わせたいものは」といった、家庭や職場での経験に基づいた整頓や声かけに関する具体的な意見を聞く機会も設けました。

アート×

アンケート
質問

アートで、ちょっと
考えてみたいことは？

アートラボで
何を作りたい？

あったらよいと
思う道具は？



雪の舞うあいにくの天候にも関わらず、当日は多くの方にご来場いただき、様々なアイデアやご意見を伺うことができました。アンケートの実施に加え、これまでのアートラボはしもとの活動にまつわる道具や試作品の展示、後継施設を紹介するパネル展示やVI計画のトークイベント、大学生による工作体験プログラムを実施しました。これら、一日を通じて、見て、つくって楽しむ、アートラボらしいプログラムとなりました。

アンケートでは、家庭や学校ではなかなか体験できないものづくりや身体を動かす活動への参加、美大生やアーティストとの交流、暮らしをテーマにアートを通して考える企画への期待などが寄せられ、リニューアルへの関心の高さが伺えました。

今後は、このようなアイデアを事業計画への反映にとどまらず、施設での過ごし方や関わり方にも展開し、安心して創造的な活動が行える環境の整備を目指していきます。

たくさんの
アイデアを
いただき
ました

アンケート
詳細



アートラボはしもと VI計画プロジェクト

VI（ヴィジュアル・アイデンティティ）とは施設や組織の「顔」となるデザインのガイドを計画することです。ロゴや色、フォントなどを通して活動の特徴や想いを市民に伝え、親しみやすく理解しやすい表現をつくります。

Vol.1 ロゴの作り方を学んで持ち帰ろう

ラボの活動や施設の特徴を表す「ためす」「ひらめく」など抽出した15のキーワードを手がかりに、デザインチーム「AFFORDANCE inc.」が講師を務め、市民参加によるロゴづくりのワークショップを行いました。



日時 | 2026年1月18日（日）11:00～12:30
会場 | アリオ橋本 HASHIMOTO BASE ROOM B
運営 | トミト・ANT・川見設計JV（相模原市受託事業）
協力 | アリオ橋本

Vol.2 アートラボはしもとの新たなロゴ 何がいい？ 語り合おう

1回目のWSで生まれた形をさらに公開プレゼンで検討し、制作と対話を重ねながら、リニューアルにふさわしいVIの可能性を探ってきました。



日時 | 2026年2月7日（土）13:00～14:00
会場 | アリオ橋本 グランドガーデン
運営 | トミト・ANT・川見設計JV（相模原市受託事業）
協力 | アリオ橋本

アートラボはしもと 後継施設整備事業計画等に関する 有識者への意見聴取

大学との連携方法や市民参加のあり方、工作プログラムの運用方法について、有識者や女子美術大学の藤田百合氏および東京造形大学の小林貴史氏から意見を伺いました。

アートラボが大学をつなぐハブ機能の重要性に加え、参加する学生・ボランティア・インターンそれぞれの目的や関わり方を明確にし、役割の違いを踏まえた受入体制を整える必要性について示唆をいただきました。工作プログラムについては、素材選びや制作過程そのものを学びとして位置づけ、子どもを対象としたプログラムのなかで保護者にも学びにつながる時間を導入する視点、参加者の自由度や主体性を高める運用の重要性について助言がありました。これらの意見は、今後の事業展開や持続的な運営のあり方を考えるうえで、大変参考となるものでした。

今回の意見聴取のように、大学や関連施設と実践を共有する機会を重ねることで、本地域全体の取組として発展していくことが期待されます。

大学連携

アートの学びがまちへとひらく実践 東京造形大学ワークショップ つくって へんしん カワルンジャー

大学・学生・地域のコミュニティ形成に向けた連携事業の一環として、アリオ橋本に協力いただき、「へんしんグッズ」を制作する工作プログラム「つくって へんしん カワルンジャー」を実施しました。

同施設の各店舗には靴箱や駄菓子子の空き箱、梱包材、カプセルトイの空カプセル、布の切れ端などの素材を提供していただき、それらを活かした工作を考えました。

実施にあたっては企画段階からアリオ橋本のスタッフの方々にもアイデアをいただき、学生と一緒にバックヤード探検をしながら素材を集めるなど、企業・大学・行政が一体となって準備に取り組んでいます。

当日、子どもたちは素材の山を前に大喜びで、思い思いにグッズをつくりました。学生にとっては実践的な学びの場に、そしてアートラボにとっては新たな協力のかたちを築く貴重な機会となりました。アイデアを出し合うことで、身近な素材が新しい姿に生まれ変わる可能性を関係者自身も感じられる協働プログラムでした。

日時 | 2025年7月29日(火) 9:30~16:00

企画 | 東京造形大学小林ゼミナール

場所 | 旭児童クラブ

主催 | アートラボはしもと(相模原市)

協力 | アリオ橋本



完成:へんしん仮面

試作



活動の流れ

アリオ橋本内協力店舗 | Right-on/SUPER SPORTS XEBIO/Craft Heart Tokai/
1丁目1番地/GENDA GiGO Entertainment/HUMPTY DUMPTY

館内・バックヤードツアー



店舗挨拶



アイデア出し



準備風景



実施風景



工作の様子



完成

へんしん仮面

連携WS | 参加学生の声



▶ 人とアートの懸け橋へ

中原楓

東京造形大学造形学部3年

「想像で終わらすのではなく、形にして実行する。」それがアートラボさんとの活動を通して得た学びです。

夏に行った児童クラブでのWSでは、地域の商業施設から廃材を貰い、それらを活用した企画を立てました。初めてのことも多く、企画が難航する時もありました。特に難しかったのは、導入から制作に移るまでの流れです。子どもたちのやる気を引き出す方法を模索した結果、最終的には導入として「ヒーローショー」を行いました。これまでに例がない試みだったので、当初は想像で終わってしまうと思っていました。しかし、試行錯誤を繰り返し、事前準備などに力を貸していただいたため、実際の形となり、子どもたちの主体性を引き出すことが出来ました。私たちのアイデアを信じ、最後まで一緒に寄り添っていただけたことが何より印象に残っています。

連携事業を通して、地域と密着し、アートをもっと身近に感じられるような機会を作る事が出来ました。地域の人から「楽しい」「家でもやりたい」といった声をいただき、人とアートの架け橋になりたいと私自身の目標が生まれました。今後はこの目標を掲げて制作を行い、「想像だけで終わらすのではなく、形にして実行する。」といった学びを忘れずに、アートの魅力を伝えていきたいです。

▶ 重なりの中で生まれたかたち

岡本唯杏

東京造形大学造形学部3年

連携事業に取り組む中で、どのような体験が楽しいのか、どのように素材を生かせるのかを考え続けました。安全面や衛生面についても、実際にWSを企画する中で初めて具体的に考えることばかりで、その難しさを感じながら、多くの案を出し合い、試行錯誤を重ねて形にしていきました。

専攻の異なるメンバーやアートラボはしもとの方々、アリオ橋本の方々との関わりの中で、自分一人では思いつかない意見が生まれ、必要なものを一緒に探しながら、少しずつ形になっていきました。それらをまとめていく過程そのものに、面白さと広がりを感じました。また、実際に手を動かし、体を使ってものを作る楽しさや、参加者のやりたいことを見守り支える時間の豊かさは、普段の個人制作やパソコンに向き合う中では気づけなかった感覚でした。

今後もアートラボはしもとが、子どもたちにとって自由に体や手を動かし、新しい発見や自分なりの表現を見つけていける大切な場であり続けることを楽しみにしています。

▶ のびのび遊べる場づくりへ

金澤楓花

東京造形大学造形学部3年

子どもたちの自然で無邪気な発想を引き出し、のびのびと遊べる場づくりを大切にしたいWSを実施しました。

この企画の準備過程では、自分たちもWSに参加しているような感覚で手を動かしながらアイデアを出し合いましたが、その時間がとても新鮮でした。また、様々な専攻のメンバーと密に関わりながら作業できたことも大きな経験であり、多様な視点に触れることで企画の幅が広がったと感じています。一方で、グループで一つの企画を形にする難しさも実感しました。特に、意見をまとめて方向性を決めることや、限られた時間で役割分担をしながら進める点に苦労しました。その中で試行錯誤を重ね、苦労した分、協力してつくり上げる面白さや達成感を得ることができました。今後は、事前の準備や情報共有をより丁寧に行い、より良い企画づくりにつなげていきたいと思っています。

学生の私たちを信頼して任せてくださった職員の皆様、ありがとうございました。

アリオ橋本 | 美大生との連携について

体験プログラム

『「すすめ!おえかきカート」ショッピングカートを使って巨大な「おえかき?」』

相模原市内の美大生が集まり、アリオ橋本のショッピングカートに絵筆に、ホワイトシートをキャンバスに見立てて巨大な絵を描きました。まず、学生たちが絵筆にしたカートで手本となる公開制作を行い、その後、参加者全員で描き上げていきました。

こちらはアリオ橋本・大学生・地域のコミュニティ形成に向けた連携支援の一環として行われました。

日時 | 2026年2月7日(土) 11:00~18:00

会場 | アリオ橋本 グランドガーデン付近

運営 | アリオ橋本



SUPER OPEN STUDIO 2025



1. PARK8／2. LUCKY HAPPY STUDIO／3. studio kelcova／4. STACK ROOM／5. アトリエボイス／
6. RED IRON STUDIO／7. モゲスタ Moge Studio／8. 8-18／9. Studio HAUSU (スタジオ ハースー)／
10. クンストハウス／11. STUDIO 牛小屋／12. スタジオ* ムコウ／13. Penguin's House Green／
14. アトリエ481／15. STUDIO カタクリコ／16. Bartleby／17. studio ban／18. SPECIAL FEELING STUDIO／
19. スペースくらげ+DUST BUNNY／20. オルタナティブ掘って小屋『ナミイタ』+アトリエ柿の里



S.O.S.NET HP

SUPER OPEN STUDIO 2025

2013年からスタートした「SUPER OPEN STUDIO (以下「S.O.S.」という)」は、相模原市とその周辺地域で活動するアーティストたち「Super Open Studio NETWORK (以下「S.O.S. NET」という)」が主体となり、スタジオ (制作現場) の公開を軸に様々な企画を毎年継続してきた事業です。

2025年度はスタジオ20軒、アーティスト104名が参加し、来場者には作品が生み出される現場の空気やアーティストとの出会いなど、美術館やギャラリーでは得られない体験を楽しんでいただきました。

昨年に引き続き、スタジオ公開を中心にアーティストと一緒にスタジオを巡る「スタジオビジット・バスツアー」や、各スタジオのオリジナルスタンプを集める「スタジオスタンプラリー」を実施したほか、新たな試みとしてアーティストや来場者の交流を促す「Super Art Market」を開催しました。

また、『スタジオと「」』では、アーティストが日々集めているものを特集したフリーペーパーを発行し、連動企画「S.O.S. CABINET」として実際に各スタジオに設置。紙面内で個々のエピソードを紹介しつつ、日々の制作にまつわる活動にふれる仕掛けとして展開しました。

こうした企画を通して、スタジオの魅力をより多角的に体験できる場をつくることで、参加者がアーティストや制作を身近に感じてもらえるよう目指しています。

会期 | 2025年11月8日 (土)、9日 (日)、10日 (月)、15日 (土)、16日 (日)

主催 | SUPER OPEN STUDIO 実行委員会

(Super Open Studio NETWORK、相模原市)

共催 | 相模原市

協賛 | 株式会社アライ、東京造形大学校友会

協力 | アリオ橋本

スタジオビジット・バスツアー

ツアーごとにゲストアーティストがガイド役として同乗し、制作やスタジオ周辺情報などをラジオトーク形式で紹介しながら巡るバスツアーです。参加者は、アーティストの普段の生活や制作についての話を聞きながら、和やかな雰囲気ですアアを楽しんでいました。



日時 | 11月9日 (日)、10日 (月)、15日 (土)、16日 (日)

1日2便 11:00~14:00、15:00~18:00

参加者の声 (一部抜粋)

- アクセスが難しいスタジオを、バスで巡っていただけたのがとても助かりました。アーティスト、関係者の方々とお話できるよい機会でもありました。
- 参加アーティストの事、制作ストーリーや作品の背景を知る事で更に楽しめると感じました。
- ツアーに参加することで、シェアアトリエそれぞれの色を感じられたのがありがたかったです。

スタジオと「」Vol.2 スタジオと「集める」

企画・編集 | 今井しほか

「スタジオ」を起点に改めてS.O.S.に紐づく事象をことばにしたり、聞き取った内容を並べてみたりすることで、スタジオで制作を続けるアーティスト一人ひとりを知るきっかけづくりを試みる企画です。今回は「集める」をテーマにアーティスト6名と1組のユニットにインタビューし、身近なもの・ことがどのように作品化されるかなどを探りました。



※S.O.S.NET HPより冊子のアーカイブがご覧いただけます。

スタジオと「」Vol.2 スタジオと「集める」連動企画 S.O.S.CABINET

企画 | 水上愛美、今井しほか

日々の痕跡である“集める”という行為が、生活や制作にどのように関わっているのかを紹介するため、スタジオ内に集めているものを展示するブースを設置しました。実物にふれることで、思考の断片や制作の源泉をより身近に感じることができるものとなりました。



スタジオスタンプラリー

協賛 | 株式会社アライ

スタジオを巡り、各スタジオのオリジナルスタンプを集めるスタンプラリーを実施しました。3軒以上集めた方には、先着限定で記念品をお渡ししました。



Super Art Market (S.A.M.)

画材や道具の配布、作品やグッズ販売及び技術的な相談のできるコーナーを設け、アーティストやスタジオ来場者、アーティスト同士のコミュニケーションの場となりました。



マッチング事業など

多摩美術大学PBL科目との連携事業

軒下プロジェクト in 相模原2025

各店舗の“軒下”にアーティストの作品を展示する「軒下プロジェクト」は、多摩美術大学の実践型授業PBL科目の受講生が実施したものです。学生たちは相模原駅周辺の各商店街（さがみ夢大通り商店会、相模原東商店会、相模原西商店街協同組合）の承諾を得て、協力店舗を募り、併せて出品アーティストとのマッチングを行います。店舗とアーティストを結び付け、“軒下”に作品を展示することを目的としたプロジェクトでした。カフェや和服店、生花店や不動産業、さらには歯科医院や銀行、郵便局までもが協力し、10名のアーティストの作品を展示しました。アートラボは学生たちと同行し、各店舗との交渉などに指導・助言を行っています。

会期 | 2025年8月17日（日）～9月7日（日）
会場 | 相模原駅前商店街周辺
企画 | 多摩美術大学PBLコミュニティアート
主催 | 多摩美術大学
後援 | 相模原市中央区役所
協力 | 相模原東商店会
相模原西商店街協同組合
さがみ夢大通り商店会
アートラボはしもと（相模原市）

*地域などとの連携を通して社会から学びを得る学生主体のプロジェクト型の授業。



軒下プロジェクトマップ紙面



相模原土地開発株式会社



仲尾歯科医院

その他活動

東京造形大学大学院講義

アートラボはしもとの後継施設について 「ひらく」と「こもる」をテーマに話してみました！

東京造形大学の大学院生を対象に、「社会教育における造形活動の可能性を探ること」をテーマに当館の学芸員が講義を行いました。講義内では「ひらく（交流・公共性）」と「こもる（没入・集中）」をキーワードにアリオ橋本にリニューアルオープンするアートラボはしもとでの「過ごし方」を考えるグループワークを実施しました。グループワークを通して、「ひらく」と「こもる」は固定された対立関係ではなく、立場や視点によって意味が大きく入れ替わることが見えてきました。学生にとっては「こもる」つもりで構想した企画や行動も、アリオ橋本という開かれた場所に置かれることで周囲の人の視線や反応を自然と引き込み、「ひらく（見せる・関わる）」性質を合わせ持つものとして立ち上がる点が、新しいアートラボはしもとの特徴として捉えられました。

日時 | 2025年12月19日（金）13:30～16:30
会場 | 東京造形大学



派遣 相模原市の魅力を漫画で伝える

内出中学校の総合学習授業に講師として招かれ、「相模原市の魅力を漫画で伝える」をテーマに生徒たちがタブレット端末で制作した漫画について、その講評や指導を行いました。



会期 | 2025年10月17日（金）
会場 | 内出中学校
協力 | アートラボはしもと（相模原市）

紹介 オリジナルキャラ きらきらふわふわオーナメントづくり

S.O.S.NET所属の作家を紹介し、小山児童クラブで、小学校低学年向けの、オーナメント作りのWSを開催しました。



会期 | 2025年11月26日（水）
会場 | 小山児童クラブ
協力 | Super Open Studio NETWORK、和田咲良、見城貴大
Kim Songhee、西山綾香

2025年度事業一覧

2025年度事業一覧

地域連携事業

S O S

大学連携事業

その他事業

事業名	分類	プログラム名	実施日	参加数	会 場	講師など	頁
《別府×相模原クロッシング》 交換展示トークシリーズ	講師派遣	第3回地域と関わるしごと	2025/10/28	22	オンライン	当館学芸員	-
再整備・協力事業	WS	アートラボはしもとVI計画プロジェクトVol.1 「ロゴの作り方を学んで持ち帰ろう」	2026/1/18	36	アリオ橋本	AFFORDANCE.inc	4
	その他	アートラボはしもとVI計画プロジェクトVol.2 「アートラボはしもとの新たなロゴ 何かいい？ 語り合おう」	2026/2/7	15	アリオ橋本	AFFORDANCE.inc	
再整備事業	その他	アートラボはしもと セッセとジュンビチュウ！ ～ひらめきアイデア募集中～	2026/2/7	509	アリオ橋本	当館学芸員、当館美術専門員	3
SUPER OPEN STUDIO	その他	スタジオ公開	2025/11/8～11/16	2016	-		7,8
	ツアー	スタジオ・ビジットバスツアー（1）	2025/11/9	21	-	園田翔子、和田咲良	
	ツアー	スタジオ・ビジットバスツアー（2）	2025/11/9	23	-	今井しほか、辻村文太郎	
	ツアー	スタジオ・ビジットバスツアー（3）	2025/11/10	23	-	大槻英世、和田咲良	
	ツアー	スタジオ・ビジットバスツアー（4）	2025/11/10	17	-	安達裕美佳、ナガタコウタロウ	
	ツアー	スタジオ・ビジットバスツアー（5）	2025/11/15	19	-	水上愛美、若林菜穂	
	ツアー	スタジオ・ビジットバスツアー（6）	2025/11/15	25	-	楠博、吉岡知秋	
	ツアー	スタジオ・ビジットバスツアー（7）	2025/11/16	22	-	見城貴大、吉田裕亮	
	ツアー	スタジオ・ビジットバスツアー（8）	2025/11/16	23	-	TODD、久村卓	
	その他	スタジオと「 」 vol.2 スタジオと「集める」	-	-	-	泉啓司、内田望、翁素曼、どうそのベンチ クルー久村卓＋加藤慶、 長尾郁明、和田咲良、若林菜穂	
	その他	S.O.S. CABINET	-	-	-	クンストハウス、STUDIO カタクリコ、studio kelcova、studio ban、 RED IRON STUDIO	
	その他	Super Art Market (S.A.M.)	-	-	-	アトリエボイス、オルタナティブ猫っ立て小屋「ナミミタ」＋アトリエ柿の里、 クンストハウス、STUDIO 牛小屋、STUDIO カタクリコ、studio kelcova、 Studio HAUSU（スタジオハウスー）、スタジオ* ムコウ、STACK ROOM、 スペースくらげ＋DUST BUNNY、Bartleby	
東京造形大学連携事業	工作	「つくって へんしん カワルンジャー」	2025/7/29	58	旭児童クラブ	東京造形大学小林ゼミナール学生	5
多摩美術大学PBL科目との 連携事業	その他	軒下プロジェクト in 相模原2025 会期: 2025/8/17～9/7	2025/4～9	-	相模原駅前商店街周辺	相模原東商店会、相模原西商店街協同組合、さがみ夢大通り商店会、 多摩美術大学学生	9
東京造形大学連携事業	講師派遣	講義:社会教育における造形活動の可能性を探ること	2025/12/19	18	東京造形大学	当館学芸員	9
地域連携	講師派遣	講座:相模原の美術史 ～相模原画壇の夜明け～	2025/7/12	20	新磯公民館	当館美術専門員	10
	講師派遣	講評:相模原市の魅力を漫画で伝えること	2025/10/17	36	内出中学校	当館美術専門員	10
プログラム参加者数計				2903			

相談受付件数: 計 7 件
うちマッチング成立件数: モノの成立 (物件、場所などの紹介) 0 件 / ヒトの成立 (アーティスト、講師などの紹介) 2 件

さがみはらデジタルアーカイブで公開しています。

本市では貴重な資料や資源の保存並びに公開利用のため、それらの情報をデータ化し、デジタルアーカイブとして提供しています。アートラボはしもとでも現在、過去の事業を整理し、順次公開しています。また、これまでのアートラボの活動はHPの年次報告書からもご覧いただけます。

年次報告書

デジタルアーカイブ

